

龍谷大学仏教文化研究叢書28

大取一馬編

典籍と史料

A5判・680頁／定価8,925円(税込) ISBN978-4-7842-1592-8

2011年10月刊行予定

1961(昭和36)年、親鸞聖人大遠忌記念事業の一環として開設された、龍谷大学仏教文化研究所の研究者陣による、真宗学・仏教学・史学・国文学等の分野にまたがる広汎な仏教文化の最新研究成果。

《 内容目次 》

第1部◆典籍編

- ★ 『伊勢物語』業平時代の成立について
内田美由紀
- ★ 『続詞花集』考 — 『千載集』との比較をめぐって—
鈴木徳男
- ★ 社頭歌合の歌題構成と位署
安井重雄
- ★ 和歌における『和漢朗詠集』の受容
岩井宏子
- ★ 式子内親王歌の本質
小田 剛
- ★ 『頭注密勘』古筆切管見
日比野浩信
- ★ 西光と地藏菩薩 — 神宮文庫本『沙石集』の生成—
浜畑圭吾
- ★ 『沙石集』諸本異同から見た梵舜本本文の特性
加美甲多
- ★ 『亀山殿七百首』伝本考(続)
酒井茂幸
- ★ 後柏原天皇の三代集仮名句題について
小山順子
- ★ 絵仏師「宅間法眼」の画業と説話
— 『貴船の本地』に登場する意味—
三浦俊介
- ★ 「地獄の馬」の表現史 — 人面獣心と人面獣身—
田村正彦

第2部◆史料編

- ★ 古代尺よりみた法隆寺遺宝
關根真隆
- ★ 後鳥羽院の新古今撰集について
— 『源家長日記』の関連記事を中心に—
大取一馬
- ★ 『教行信証』「信巻」逆謗撰取釈について
玉木興慈
- ★ 龍谷大学図書館禿氏文庫蔵『興福寺奏達状』について
— 『興福寺奏状』の草稿本もしくは今一つの「奏状」—
楠 淳證
- ★ 禿氏文庫本『因明十題』について
— 文庫本欠落箇所に対応する東大寺図書館蔵『因明十題』翻刻を通して—
後藤康夫
- ★ 解脱上人貞慶と同法達との「契約」
— 龍谷大学図書館禿氏文庫蔵『愚迷発心集』が語りかけるもの—
新倉和文
- ★ 上杉謙信祈願所新義真言宗長福寺の唱導資料
— 龍谷大学図書館禿氏文庫蔵『毎日講説草』本文と研究—
原田信之
- ★ 神道歌学の成立 — 卜部兼雄の業績—
三輪正胤
- ★ 藤門周斎序『法楽寺奉納百首和歌』について
日下幸男
- ★ 福井崇蘭館旧蔵・光格天皇宸翰尺牘について
内田誠一
- ★ 『妙好人伝』と『続妙好人伝』の出版と流通
万波寿子

おとり・かずま … 1947年生。龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。現在、龍谷大学文学部教授。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel075-751-1781 fax075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	典籍と史料	本体8,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1592-8	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				書店番線印

中世近世和歌文芸論集

龍谷叢書15

日下幸男編

編者の華甲記念として、関西を中心に活動する近世和歌輪読会による初の論文集。現在の中世・近世の和歌研究に一石を投じる意欲作17篇。

【執筆】安井重雄・阿尾あすか・長谷川千尋・長谷川薫・大谷俊太・岡本聡・藤本孝一・海野圭介・小高道子・日下幸男・西田正宏・神作研一・盛田帝子・久保田啓一・中川豊・加藤弓枝・万波寿子

▶A5判・432頁／定価6,300円

ISBN978-4-7842-1446-4

中古中世和歌文学論叢

龍谷大学仏教文化研究叢書9

大取一馬編

歌論書、歌合判詞、私家集、私撰集、古筆切などをとおして、中世中古の和歌の理念や特質、古代和歌受容の問題、さらには作品の成立や解釈に関わる問題、新出資料の価値や散佚私家集を解明する問題に取り組む。

▶A5判・300頁／定価8,190円

ISBN4-7842-0983-2

禿氏文庫本

龍谷大学善本叢書29

大取一馬責任編集

龍谷大学名誉教授禿氏(とくし)祐祥博士寄贈の文庫は、梵文経典や中国・日本の仏書をはじめ、真宗史・仏教美術に関する典籍、絵画等多岐にわたっており、総数2300余点に及ぶ。仏教・真宗・国史・国文の4班で行われた調査の結果を影印として一冊にまとめたものである

▶A5判・674頁／定価14,700円

ISBN978-4-7842-1539-3

四十人集 [全3冊]

龍谷大学善本叢書18

家郷隆文責任編集

平安～鎌倉期にかけての歌人41人の私家集を写した40冊の叢書で、澄月や小澤蘆庵の門人らが書写し、さらに蘆庵による朱筆の校合・訂正が加えられ、伝本研究のみならず蘆庵の仮名遣いの訂正など興味深い史料。全冊を影印で収め、各冊に収録分の解説を併載。

▶A5判・総2100頁／定価50,400円

ISBN4-7842-0970-0

※太平記

龍谷大学善本叢書26

大取一馬責任編集／加美宏・浜畑圭吾解説

室町時代末期の写本で、巻1から巻12までの12冊である。現在の分類では丙類の天正本系統に分類され、国立国会図書館蔵義輝本と同じ祖本をもつ伝本であるという位置づけがなされている。また当該本は寫字臺文庫本の一つである。全冊を影印で収録。

▶A5判・792頁／定価15,750円

ISBN978-4-7842-1365-8

三条西公条自筆稿本 源氏物語細流抄

龍谷大学善本叢書25

安藤徹責任編集

『細流抄』を親本とした三条西実隆の『源氏物語』講釈の聞書にもとづき、子の公条が注釈書の草稿として作成したもの。公条はこの龍大本に増補修訂を繰り返す、講釈の親本として使用していたと推測され、三条西源氏学の歴史や『源氏物語』註釈史を考察する上で貴重。

▶B5判・706頁／定価29,400円

ISBN4-7842-1234-5

『狭衣物語』享受史論究

川崎佐知子著

『源氏物語』に並称された平安朝後期物語の傑作『狭衣物語』の受容の様相を文献学的見地から徹底的に分析検証し、連歌師紹巴が天正18年に著した『狭衣下紐』を享受史の中核に位置づけた。(財)陽明文庫所蔵『狭衣下紐』2種ほか未紹介資料5種を全文完全翻刻掲載。物語文学研究の新スタンダード。

▶A5判・640頁／定価12,600円

ISBN978-4-7842-1486-0

日本古典随筆の研究と資料

龍谷大学仏教文化研究叢書19

糸井通浩編

龍谷大学図書館所蔵の日本古典随筆に関する伝写本を悉皆調査した研究プロジェクトの成果。『枕草子』『徒然草』雨森芳洲『交隣提醒』についての研究論文7篇に加え、重要と思われる古典随筆伝写本5本を翻刻紹介する。【執筆】安藤徹・東望歩・外山敦子・糸井通浩・木村雅則・朝木敏子・山崎泰正・忠住佳織・万波寿子・雨森正高

▶A5判・480頁／定価7,560円

ISBN978-4-7842-1349-8

※中世の文学と学問

龍谷大学仏教文化研究叢書15

大取一馬編

戦乱続く中世の文学では、人間の本質的な部分を深く追究する傾向がある。本書は中世の文学や学問の特質の一端を考察。【執筆】三輪正胤・安井重雄・来田隆・鈴木徳男・小山順子・忠住佳織・松田美由貴・浜畑圭吾・宮川明子・西山美香・中條敦仁・小林強・万波寿子・日下幸男

▶A5判・492頁／定価8,820円

ISBN4-7842-1271-X

類聚古集 [全3冊]

龍谷大学善本叢書20

秋本守英責任編集

万葉集研究に不可欠の孤本『類聚古集』(国宝)を新撮によって全丁を完全収録。上段に原本影印、下段に書写状態を完全に反映させた翻刻を収録。研究論文2篇を加え、全体として『類聚古集』の総合的研究書の体裁もとのえた。

▶B5判・総1800頁／定価59,850円

ISBN4-7842-1041-5

平家物語 [全4冊]

龍谷大学善本叢書13

大取一馬責任編集

龍谷大学図書館所蔵写字台文庫旧蔵の「平家物語」全12巻を影印で収録。同書は語り本系一方流諸本の中で覚一本の最善本として高く評価され、文学的に最も完成された伝本といわれる最古写本。岩波本「日本古典文学大系」の底本となったものである。

▶A5判・平均520頁／定価44,100円

ISBN4-7842-0794-5

詞源要略・和歌会席

龍谷大学善本叢書24

大取一馬責任編集

龍谷大学図書館写字台文庫所蔵の旧舟橋家旧蔵本より、室町後期の清原宣賢自筆の『詞源要略』(孤本)と『和歌会席』の二点を収録。『詞源要略』は和歌に関する分類体辞書、『和歌会席』は和歌作法書であり、歌学史・辞書史、また宣賢の学問の研究に有益なものである。

▶B5判・290頁／定価19,950円

ISBN4-7842-1196-9

うたひせう(諷調鈔) [全3冊]

龍谷大学善本叢書2

宗政五十緒責任編集

龍谷大学所蔵『諷調鈔』は『うたひせう』の成立間もない慶長3・4年の丸山分庵による書写で、本書はその影印。謡曲の詞章研究最初の著述で、桃山期の文化を窺うことができ、当時の言語現象が把握できる。

▶A5判・総1700頁／定価35,700円

ISBN4-7842- ①-0420-2 ②-0421-0 ③-0422-9

禁裏本歌書の蔵書史的研究

酒井茂幸著

禁裏本の総体を蔵書群として捉え、同時代の公家日記や古歌書目録類を援用しつつその伝来の歴史を跡付ける。また、禁裏における歌学や古典文学の注釈・講釈に注目し、古典学の変遷を叙述する。中世後期以降、歴代天皇がどのような歌書を求め、書写し、収集していったかを明らかにするのが本書の目的である。

▶A5判・344頁／定価5,880円

ISBN978-4-7842-1483-9

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。